

食品サンプル体験の始まり

—郡上市での始まりと今後の展望—

内 山 慎 吾

I はじめに

本研究の目的は、岐阜県郡上市における食品サンプルの発展史を調査し、食品サンプルが郡上市の観光に与える影響について明らかにしていく。

本研究は、京都文教大学大学院文化人類学研究科の授業の1つである「フィールドワーク」で、2011年7月9日～7月12日の間に岐阜県郡上市で行った聞き取り調査の内容をまとめる。

II 概要

1 地理

郡上市は、岐阜県の中部に位置する市である。郡上市の地理を市長公室秘書広報課は次のように発表している。

郡上市は、日本そして岐阜県のほぼ中央部に位置し、東部は下呂市に接し、北部は高山市に、西部は関市、福井県大野市に、南部は美濃市、関市に接しています。

また、郡上市の地勢は、最低海拔地の美並町木尾が110m、最高海拔地の白鳥町銚子ヶ峰が1,810mと高低差が大きく、長良川源流部にあたる高鷲町の大日山麓一帯にはひるがの高原、上野高原が、明宝水沢上一帯にはめいほう高原が広がっており、雄大な自然に囲まれたロケーションとなっています。さらに長良川をはじめとして和良川、医師徹白川などの一級河川が24本あり、山林の高い水源かんよう能力に

よって、美しく豊かな水に恵まれています。

郡上市の面積は1,030.79km²となっています。

気温は、年平均気温が11.7℃（長滝観測所）12.8℃（八幡観測所）です。なお、郡上市の観測所は2か所あるため、記述は2か所とも行い、以後気温に関する記述は前者が長滝観測所、後者が八幡観測所です。最高気温は22.9℃と24.6℃¹⁾。最低気温が0.2℃と1.6℃となっています [市長公室秘書広報課 2010:2]。

郡上市の総人口は次の通りである。

人口は、2011年3月1日現在総人口は46,383人。うち女性23,902人、男性22,481となっています。世帯数は14,936です [<http://www.city.gujo.gifu.jp/>]。

2 歴史

郡上市とその周辺の歴史を郡上市は次のようにまとめている。

郡上郡の成立

平安時代の斉衡2年(855)に美濃国武儀郡は二分立して武儀・郡上郡となったことが『文徳実録』に記されています。郡上郡には郡上・安郡・和良・栗垣(栗栖)の四郷が置かれました。その後平安時代後期に荘園制が展開してくると、郷名は消えて変わって気良・山田・吉田荘が成立してきました。

中世（鎌倉・室町・戦国時代）

鎌倉時代承久2年(1221)承久の変の結果、鎌倉幕府御家人の東胤行が、郡上郡山田荘の新補地頭に任ぜられました。東氏は阿千葉城・篠脇城(大和町)を築き、一四世紀の九代領主益之の時代には、将軍家に仕えるとともに郡上郡一帯に勢力を拡めました。戦国時代に入ると、美濃の斉藤氏や越前の朝倉氏の侵攻をうけ、城を八幡東殿山へ移しました。

東氏代々は、五山文学の禅僧を輩出し、勅撰和歌集に名を連ねるなど文化に優れ、特に東常縁は宗祇への古今伝授によって有名であり、宗祇水(八幡町)の古蹟が残っています。

近世（江戸時代）

戦国時代末期、永禄2年(1559)東氏の支族遠藤盛数が東氏を滅ぼし、八幡城を築きました。その子慶隆は戦国大名として信長・秀吉・家康に従い全国を転戦し、城下町の基を築きました。その後城主は稲葉氏・遠藤氏・井上氏・金森氏と続き、宝暦4年(1754)金森頼錦の時、幕閣重臣や藩主改易をひきおこす四年間にわたる宝暦騒動が起きました。この歴史事件は最近「郡上一揆」として映画化されました。この後青山氏が入部し幕末まで続けました。このころから郡上踊りなど町民文化が爛熟しました。明治維新時には、凌霜隊などの悲劇事件などがおきました。

近代（明治・大正・昭和時代）

明治4年(1871)廃藩置県により旧村は郡上県となりましたが、その後岐阜県に編入されました。

明治12年(1879)に郡治分割が施かれ、11町88ヶ村として郡上郡役所が八幡町に設置。明治21年(1888)町村制が施行され、郡上郡は1町16ヶ村となり、明治30年(1897)には郡上郡会が成立しました。

戦後、昭和29年(1954)町村合併促進法施行により、郡上郡は八幡町・大和町(昭和60年町制)・白鳥町・高鷲村・美並村・明方村(平成4年度明宝村)・和良村となりました。また、昭和33年には、福井県の石徹白村が白鳥町と越県合併をしました。そして、この7ヶ町村が、平成16年(2004)3月1日に合併し郡上市が誕生しました [http://www.city.gujo.gifu.jp/admin/info_history/]。

3 産業

郡上市の産業は次の通りである。

産業別事業所数²⁾

区 分		事業所数	従業員 (人)
第1次産業	農 林 漁 業	26	194
第2次産業	鉱 業	8	44
	建 築 業	485	2,770
	製 造 業	429	4,772
第3次産業	電気・ガス・熱供給・水道業	2	26
	情報通信業	13	63
	運 輸 業	43	578
	卸売・小売業	789	3,769
	金融・保険業	31	336
	不 動 産 業	41	109
	飲食店・宿泊業	559	2,298
	医療・福祉	120	1,574
	教育・学習支援	97	219
	複合サービス業	47	577
	サービス業（他に分類されないもの）	533	1,927
合計		3,223	19,256

[市長公室秘書広報課 2010:4]

4 文化

a) 水の町

郡上市は水の町として有名である。郡上八幡観光協会は、郡上市を水の町として次のようにまとめている。

水風景

郡上八幡は長良川の上流に位置し、奥美濃の山々から流れ出た吉田川、小駄良川など三つの川が合流するところにあります。

この恵まれた地形と、長い歴史の中で郡上びとによってはぐくまれた清流の文化は郡上八幡の貴重な遺産です。そして これらは、環境省によって名水の町の指定をうけたゆえんでもあります。

水舟

郡上八幡特有の水利用のシステムです。湧水や山水を引き込んだ二槽または三槽からなる水槽のうち、最初的水槽が飲用や食べ物を洗うのに使われ、次的水槽は汚れた食器などの洗浄。

そこで出たご飯つぶなどの食べ物の残りはそのまま下の池に流れて飼われている鯉や魚のエサとなり、水は自然に浄化されて川に流れこむしくみになっています。そのほとんどは個人の家の敷地内にあるのでなかなか目にふれることはないですが、観光用に設置されたものが町のあちこちにあり、町歩きで乾いた観光客のノドをうるおすのに一役かっています。

略

御用用水

城下の基盤の目の町割りにそって縦横に流れる清冽な水。これは寛文年間（1660年頃）に城下町の整備をすすめた城主の遠藤常友が防火の目的のため4年の歳月をかけて築造したものです。

家々が密集し、2度の大火の見舞われた郡上八幡は火事にはとても神経質でした。今でも家々の軒先に下がる消化用バケツはいわばその伝統のなごりともいえます。

御用用水はその主幹水となって城下の下御殿や家老屋敷にも水を供給したことからこの名があります [<http://www.gujohachiman.com/kanko/index.htm>]。

b) 郡上踊り

郡上市では、毎年7月から9月にかけて「郡上踊り」というお祭りを行う。郡上踊りについて(財)郡上八幡産業振興公社は、次のようにまとめている。

郡上おどりの起源は定かではないが、四百年ほどの伝統を持つと言われている。一五五九（永禄二）年に八幡城を築いた初代城主遠藤

盛数の子慶隆が、戦乱を経て郡上に戻り藩主となってから、寛永年間（一六二四年頃）に人心の安定と平和を保つため、孟蘭盆会³⁾に当たって踊りを奨励したと伝えられている。

略

現在では、七月中旬から九月初旬にかけて、町内各地の縁日に合わせて三十夜、郡上おどりの夕べが繰り広げられている。特に徹夜で踊り明かす四日間は、数万の踊り子で七重八重の輪が広がる一大絵巻である。

また、踊りの種目も多く、「古調かわさき、かわさき、三百、春駒、ヤッチク、げんげんばらばら、猫の手、甚句。さわぎ、まつさか」と十種を数える[財]郡上八幡産業振興公社 2001:78-79]。

郡上市ではあるが、自然が豊かで気温も年間を通して過ごしやすいものである。そして、歴史的な背景によって水を有効利用した文化も発展してきているといえる。しかし、飛騨高山・下呂といった観光地が近いためか郡上踊り以外のシーズンでは観光客の呼び込みにはいささか力不足な様子も見える。

Ⅲ 食品サンプル

飲食店の店頭には、食品の形をした模型が置いてある。当然この様な模型は食べることはできない。では、この食品の形をした模型は一体何のためにあるのか、何時から出てきて現代に至るのかを野瀬の著書を元にまとめていく。

2011年現在でも、野瀬以上に詳しく食品サンプルについてまとめている者はいない。また野瀬自身も、食品サンプルの誕生から、食品サンプルの現在までは著書でまとめているが、郡上市における食品サンプルの発展史を詳しくまとめているわけではない。

1 食品サンプルの歴史

食品サンプルの歴史であるが、野瀬は次の様にまとめている。

- ①記録でたどれる限りにおいては、日本で最初に食品サンプルに該当する「料理模型」を制作したのは京都の西尾惣次朗である。製作年代は大正6年までさかのぼる。
- ②系統的な「飲食物見本」を陳列し、今日のサンプルケースの源流になったのは大正12年11月1日にオープンした白木屋日本橋本店店舗の食堂だった。同時に生まれた食券制度と併用され、混雑解消と売上像に大きな効果をもたらした。
- ③その時の「飲食物見本」の製作者は須藤勉である。
- ④当初のサンプルは植物や病理模型を作る蠟細工の技術を基礎としていた。
- ⑤「食品模型」の制作と同時に組織的販売を最初から意図し、実行したのは岩崎瀧三である。今日、食品サンプルが一定の産業規模を確立する基礎を築いた[野瀬2002:54-55]。

野瀬による調査で、食品サンプルの始まりは、大正まで遡れることが出来るが、それ以前に食品サンプルがあったのかは、いまだに分かっていない。しかし、今回の調査はあくまでも“郡上市での食品サンプル発展”である。そこで、上記において注目するのは、郡上のちに食品サンプルの工場を開いた、岩崎瀧三である。次に岩崎がどのような経緯で食品サンプルと出会い、郡上の地に工場を開いたのかをまとめていく。

昭和7(1932)年、大阪の老松町に住む岩崎のもとに妻の従兄弟がやってきて、岩崎夫妻の家に住み始めた。

ある日、従兄弟は岩崎に本物そっくりの肉の模型の話をした。岩崎は、子供のころに溶けた蠟を水に落として「蠟の花」を咲かす遊び等の記憶からその模型は蠟でできていると直感した。

模型の話をした後日、従兄弟は家賃を滞るようになって、岩崎の

家から姿をけしたが、ある日戻ってきて岩崎に食品の形をした模型を見せたのである。

従兄弟によると料理の模型を扱う従兄弟の友人が会社の金を使い混み、埋め合わせのお金調達のために従兄弟に模型と模型作りのノウハウを教えたのだ。

試行錯誤の結果、岩崎はオムレツの模型を完成させ、このオムレツを「記念オム」と名付けた。

岩崎は、精巧にできた食品の模型を手に飲食店を何軒も回り注文を取り付けたのである。

昭和7（1932）年6月1日岩崎は食品の模型の成果から「食品模型岩崎製作所」を創業したのである。

しかし、やがて戦争が起こりサンプルの原料となるパラフィン⁴⁾が火薬の原料となるという理由から統制品目となり不足するという事態に陥る。それに加え空襲の脅威が迫ると岩崎は、故郷の郡上に戻る。

郡上に戻った岩崎はパラフィンを節約する方法を開発し、戦争に動員されていない女性を雇って、戦死者の葬儀用供物の模型を作り販売し始めた [高田 1982:208-254]。

これが郡上での食品の模型の始まりであり、「岩崎模型製造」の始まりである。

歴史の話をし始めてからここまで食品サンプルを食品の模型と記載してきた。それまで、食品サンプルという名前ではなかったため、食品サンプルという名前を使わなかった。では、何時から食品サンプルと呼ばれるようになったのか。

昭和23（1948）年に岩崎は大阪に戻り求人のパンフレットを出している。そのパンフレットには「Iwasaki Samples」とサンプルと書いている。何時からサンプルと呼ばれるようになったかは不明であるが、戦後には間違いはない[高田 1982:265-267]

岩崎が、郡上の地に食品模型を持ち込み、後に食品サンプル産業として、郡上の地で発展し産業規模を大きくしていったのは戦争がきっかけであったようである。

2 食品サンプルの定義と意味

食品サンプルは、2011年現在『広辞苑』、『大辞林』といった辞書には定義がされていない。これは野瀬が本の執筆をした2002年当時も同様であった。

「食品サンプル」という言葉は『広辞苑』にも『大辞泉』にも収録されていない。『現代用語の基礎知識』にも見当たらない[野瀬 2002:66]。

要するに誰も定義していなかったのである。では街中に当たり前のようにある食品サンプルとは一体どういうものなのか。野瀬は、著書の中で食品サンプルを次のように定義づけている。

- ①大正から昭和初期の日本で考案され発達した表現手段である
- ②飲食店の店頭または店内に陳列される
- ③その食品店で提供する商品をプラスチック・ゾルまたは蠟などの可塑性のある材料を主原料に、紙、本物の貝殻、カニの甲殻など腐敗しない自然素材で再現する
- ④それによって商品の細部を事前に説明するとともに、商品目・価格を提示することによってメニューの一部または全部の役割を果たす辞書風を書くなら「飲食店が自店で提供する商品を説明するために店頭などに置く料理などの模型。発祥は日本。メニューの役割を持つ」[野瀬 2002:66-67]

そして野瀬は、食品サンプルをイメージ喚起のための装置として位置付けている。

サンプルは具体的な食べ物のイメージを喚起する装置を果たしていると言える。炎天下で喉が乾ききっている時に「冷たいビールあります」という幟があったとする。それで十分にビールの冷たさ、ビールが喉を過ぎていく時の快感、渇きが癒される実感までイメージできる。だからさらに、ジョッキを満たす気泡をたたえたこはく色の液体、その上を覆う白い泡というサンプルが添えられていれば、想像の迫真力は増し「ビールが飲みたい」という衝動が沸いてくる。これがサンプルのイメージ喚起力である [野瀬 2002:72-73]。

野瀬の著書にて岩崎毅は暖簾の進化形と語る。

「飲食店の最初は屋台。料理人と食材が客の目の前にあるので、営業の内容を伝え、客の興味を引くには幟や暖簾で十分であった。(略)

しかし、料理が高度になり食材や調理の方法が多様になると、衛生面の配慮もあって厨房は店の奥におかれるようになる。その際、大事な役割を果たしたのが暖簾だ。暖簾は店の中と外を遮断すると同時に、つなぐものでもあった。客は暖簾ごしに店内の様子をうかがい壁の品書きや込み具合を確認して店に入ったり、過ぎたりできるからだ。食品サンプルはまさに暖簾と同じ機能を持っている。日本人はいったん店に入ると、気に入らなくても出て行きにくく感じるものだから、前もってサンプルで店の良し悪しを判断しようとする。その意味でサンプルは暖簾が進化したものといえる」 [野瀬 2002:75-76]

野瀬の言葉を要約すると「食べる前に商品の味と匂い以外は、イメージで商品を理解することができるのが食品サンプル」であるということである。

3 郡上市での食品サンプル

岩崎が、戦中郡上に持ち込んだ技術は戦後発展し、郡上市を支える産業の一つとなった。

しかし、一体誰が、何時頃から始めたのか野瀬の著書から読み取る事ができない。野瀬の著書は、岩崎が郡上に技術を持ち帰った事を記述した以降はまったく郡上の記述はない。そのため、郡上市で誰が食品サンプル体験を始めたかは読みとることはできなかった。内山はその点に注目し、郡上市で誰が食品サンプル体験を始めたのか、観光に与える影響、今後どのような展望があるかを調べる事で野瀬が調べていない部分の補完ができるのではないかと考えた。

IV 聞き取り調査

郡上しでの調査は、2011年7月9日食品サンプル創作館さんぷる工房⁵⁾にてサンプル体験。7月11日に岩崎模型製造株式会社⁶⁾にてサンプル体験と聞き取り調査。同日食品サンプル創作館さんぷる工房にて聞き取り調査。7月12日旭サンプル工房⁷⁾にてサンプル体験を行った。

本論で記述するのは、7月11日に行った聞き取り調査⁸⁾の内容である。

1 岩崎模型製造株式会社

岩崎模型製造株式会社では、佐藤一作代表取締役に取り組みを行った。

○食品サンプル体験のはじまり

食品サンプル体験を始めたのは、十数年前⁹⁾である。始めたきっかけは、食品サンプルの材料が蝋から合成樹脂に変わったため、蝋の加工技術を使って何かができないかという発想。平成4・5年頃キャンドルを作る出張体験を行っていたところ需要が高まり、出張体験ではなく会社で何かを行えないかと考えた。また岩崎模型製造株式会社が何を作っているか地元の人あまり知られていないため、知ってもらいたい機会ではないかと考えた。そして、一般の人が蝋を使った面白いことが出来ないかと始めたのが食品サンプル体験である。

2005（平成17）年に会社設備をリニューアルし、大々的に食品サンプル体験を始めたところ、報道機関が取り扱いをするようになり、沢山のお客

が来るようになった。現在では団体客だけでなく、海外からのお客も来るようになった。

食品サンプル体験をする客層については、中年層から下の世代が多い。また男性より女性のお客が多い。高齢者の割合は少ないが、孫と一緒に来る高齢者もいる。夏休みのシーズンになると、学校関係・子供会で体験にくるお客が増えてくる。

食品サンプルを扱う業者が郡上市には多いが、それらすべて岩崎模型製造株式会社で技術を学び、独立していった人たちである。岩崎模型製造株式会社から仕事を委託される会社もあるが、それだけでは利益が薄いため、観光客を相手に食品サンプル体験を行っている。

○蠟から合成樹脂へ¹⁰⁾

現在、食品サンプルの材料は合成樹脂であり、蠟で作られたものはほとんどない。また蠟から合成樹脂に材料の変更が行われてきたのは1990年代である。

蠟または合成樹脂で食品サンプルを作った時のメリットとデメリットは以下のとおりである。

	メリット	デメリット
蠟	・やり直しがきく。材料の無駄が出ない	・魚のうろこの表現ができない。 リアリティが追及できない ・修理が必要
合成樹脂	・リアリティの追及ができる ・修理の必要がない	やり直しがきかない

○食品サンプルの技術

食品サンプルを作るのは手作業が多く、リアリティを追及するため量産ができない。100個食品サンプルを作ると100個違うものができてしまう。

食品サンプルの一番難しいことは、味付けができないことである。そのため、色付けが食品サンプルの出来を決める。色付けは一人前として認められるまで本来7年かかる。しかし、現在は3年である。

食品サンプルは、ラーメンがこぼれた姿など実際にはあり得ない状態を表現する事ができるのがウリである。

○新しい試みとして「自分で作る食品サンプルキットさんぶるん」

2011春に「自分で作る食品サンプルキットさんぶるん¹¹⁾」(写真1参照)(写真2参照)を販売を開始した。現在の食品サンプルは全て合成樹脂で出来ているため、家庭で食品サンプル体験をしようとする高熱を出せるオーブンが必要となってくる。その手間を除き、手軽に蠟で体験できるよう考案し、販売が開始された。しかし、東日本大震災¹²⁾の影響で材料の入所が困難となり、販売が予定より遅れる商品が出た。東京スカイツリー¹³⁾に「元祖食品サンプル屋」として販売の計画しており、東京スカイツリーの販売も念頭に開発を行った。自宅で食品サンプル体験を行えるキットは、2011年現在郡上市において岩崎模型製造株式会社以外のサンプル関連会社は販売をしていない。



写真1



写真2

○新しい試みとして「食育SAT (サット) システム」

食品サンプルを専用の機械の上に乗せると栄養やエネルギーを瞬時に計算しパソコンの画面上に出してくれるシステムを開発した。食品のイメージだけでなく目で見て手に取ってわかるためバランスの良い食事を自分の目と手で学んでいけるのが「食育SATシステム」である。

2 食品サンプル創作館さんぶる工房

兼山勝治代表取締役様に聞き取りを行った。

○食品サンプル体験の始まり

岩崎総合研究所で仕事をしていましたが、1991年に独立し食品サンプルの下請けをしていた。しかし、バブル経済の崩壊があり、下請けがあまり来なくなりました。

そこで、下請けをしながら観光で何かできないかと常磐町の空き家で食品サンプル体験を始めた。1994年くらいから食品サンプルの観光業に力を入れ始めた。始めた当時は洗面器二つに蝋を溶かしたものを落として食品サンプル体験(天ぷら)を一日に2～3組程行っていた。1993年当時岩崎模型製造株式会社で食品サンプル体験は行われていたが、有料で始めたのはさんぶる工房が初である。当時は有料で利益が出るとは考えておらず、下請けは月に数件しか来ない状況で、郡上八幡¹⁴⁾で食っていくにはどうすればいいかと考えた結果である。

お客さんが喜び驚けるものとして、蝋での体験を始めた。また、独立し自分のお店を持った時、自分のお店においてある食品サンプルを見て、お客さんが「わーすごい」と言ってお店に入ってきていた。お客さんの「わーすごい」という驚きを観光に使えるのではないかと考えた。岩崎総合研究所で働いていた時、研修で見学に来る人の食品サンプルへの関心も食品サンプルを観光に使おうと考えたヒントとなった。

現在では食品サンプル体験が収益の9割を占めている。残りの一割が食品サンプルの注文である¹⁵⁾。

食品サンプル体験(天ぷら)は1,000円で行っているが、食品サンプル体験(天ぷら)用の具材は海外¹⁶⁾で作った物を部品として使う。国内で作ったものは値段が張ってしまう。

○客層

食品サンプル体験を目的としている客層は、若い人が多い。夏季休業時がお客さんの数が増える。年配の人が来ないというわけではない。食品サ

ンプル体験は口コミで人に伝わる。

○モノ作り

食品サンプルはモノ（和食・洋食・中華）によって作り方がすべて異なる。食品サンプルはお店によってメニューが異なる。そのため、まずモノを覚え、料理を覚えなくてはならない。学び期間が長いので食品サンプルを作る一人前になるのは、10年かかる。一人前を作るのに10年かかるため後継者を会社で生み出すのは難しいのが、中小の食品サンプル関連会社の課題である。

観光で食品サンプルを扱い始めたことによって経験が不足しがちなパートさんでもお金になる商品を作ることができるようになった。食品サンプル体験で9割の収入を得るのは、1割の一人前を育てる過程でもある。

○食品サンプル体験を行って町の変化

町の人から「サンプルなかったら今これだけお客さんいなかったよね」という意見がある。

○工夫

食品サンプル体験は平日予約制、土日は当日館内受付で30分ごとに12名で行う。「30分待ってください」というとお客さんも嫌がるので、「10分前にきてください」とお会計をし、時間を紙に書く。ちゃんと書くことによってお客さんも観光する時間ができて町でお金を使ってくれる。

○新しい試みとして「さんぶる工房北町館」

食品サンプルを作ると本物が食べたくなるお客さんの気持ちと、食品サンプルの店にお客さんが入ったとき、「ここでは本物を食べれないのか」というリクエストにこたえ、本物も食べることのできるサンプル屋さんというコンセプトで、さんぶる工房北町館を2011春営業開始した。

V 考察

○年表

岩崎模型製造株式会社と食品サンプル創作館さんぶる工房への聞き取り調査の結果を年表にまとめてみる。

西暦	郡上での動き	日本の動き
1980年代～ 1990年代		食品サンプルの原材料が 蠟から合成樹脂に変わる
1990	兼山氏、独立	
1991		バブル経済の崩壊
1992	岩崎模型製造株式会社 が食品サンプル体験を 開始する（出張体験）	
1994	兼山氏が常磐町にて有 料（1,000円）で食品サ ンプル体験を始める	
2010	食品サンプル創作館さん ぶる工房にてスイーツデ コストラップ体験を始 める	
2011	本物も食べることで できるサンプル屋をコ ンセプトにさんぶる工 房北町館オープン 岩崎模型製造株式會 社が「自分で作る食 品サンプルきっとさん ぶるん」を販売開始	東日本大震災が起こ る

○調査から

食品サンプル体験を開始したのは、岩崎模型製造株式会社が初である。有料で体験を始めたのは食品サンプル創作館さんぶる工房の代表取締役である兼山氏である。

食品サンプルの原材料の変化とバブル経済の崩壊が、食品サンプル体験誕生のきっかけであることがうかがえる。

食品サンプルが観光産業として約20年経つが、20年間郡上市に来る観光客に蠟を使った食品サンプル体験をずっとしていただけてない。新しい試みをしていく事によって観光客に食品サンプルをお店の展示コーナー以外

での活用法を提供している。

食品サンプル観光は、食品サンプルを目指す人にとっての経験を積む場となり、観光として提供する会社の利益、観光をする人の娯楽以外の意味も持つことが分かった。

郡上市では、郡上おどりや自然の観光資源数多くある。しかし、郡上踊りは夏にしか行われぬ。また、歴史・自然観光資源はなかなか人の手を加える事ができない。そんな中、食品サンプルは観光資源として、人の手で常に変化可能なものであり、事実、調査した二箇所においても数年に一度新しい試みを行っている。食品サンプルは今後の郡上市の観光を支えていく大きな資源である事は違いないだろう。

「売り上げの9割が食品サンプル体験であり、注文が1割である」というインタビュー結果からすると、食品サンプル体験は食品サンプルを扱う会社を支えているということはわかる。さらに、この聞き取り結果は大きな意味を持っている。食品サンプル体験は郡上市に来ないとできないということである。食品サンプル体験自体を目的としていなくても、“郡上市に観光に来ている”ということである。つまり、食品サンプル体験が観光の目的ではなくても、食品サンプル体験に観光客が来たという事実は、食品サンプル体験が郡上市の観光に“少なからず貢献してる”といえるであろう。今回の調査では、観光での売り上げ観光客の人数といった統計的なデータとっているわけではないので、現段階では“少なからず貢献している”としか言えない。

町の人からの声として、「食品サンプルが町の観光に貢献している」という声もある。一方で、町の人意見として「水や郡上踊りが郡上市の文化の中心であり、食品サンプルは最近出てきたものであり若い人たちのものであるため、よくわからない」という意見もある。岩崎瀧三が郡上市で食品サンプル産業を始めて50年ほどしか経っていないのと、食品サンプル体験が行われ始めて20年も経っていない。郡上市に住む人にとって、水と郡上踊りが、郡上の観光を支えるものであって、食品サンプルが観光に貢献しているというのはまだまだ認識が浅いといえるのではないだろうか。食品サンプルが、観光産業の支えになっているというのは地域住民には十

分に認識されていないと考えられる。

数年に一度の間隔で行われていく企業の新しい試み。地域住民が、食品サンプル体験という観光にどれだけ興味を持つか。この二点が郡上市観光に食品サンプルというものが、影響を与えていくの大きな要因であるのではないか、今回の調査でのまとめである。

VI 今後に向けて

今回の調査で明らかとなったことは、野瀬の著書にはなかった、観光資源としての食品サンプル体験がどのような経緯で誕生していったという部分である。

今回の調査では、さらに、聞き取りは「何時ごろからどんなきっかけで食品サンプル体験を始めたのか」、「食品サンプルを使って新しい試みをしているのか」という聞き取りが中心になってしまったため、片方では聞いたことを片方では聞いていないということが起きてしまった。さらに、現在郡上市において食品サンプルを作る企業がどの位あるのか、体験施設はどの位あるのかを調査する事が出来なかった。

本論にも記述したが、野瀬以外で食品サンプルについて詳しく調べたものは2011年ではない。そのため調査を行おうと考えれば、色々な調査を今後行える。

注

- 1) 2009年度のデータ
- 2) 2006年度のデータ
- 3) 七月一五日を中心に祖先の冥福を祈る仏事。江戸時代からは一三日から一六日にかけて行われ、ふつう、迎え火をたいて死者の霊を迎え、精霊棚を作って供物をそなえ、僧による棚経をあげ、墓参りなどをし、送り火をたいて、霊を送る。現在は、地方により陰暦で行う所と、一月遅れの月一五日前後に行う所とがある。精霊会。盆。お盆。盂蘭盆会。魂祭り[小学館『大辞泉』編集部 1995:264]。

- 4) パラフィン：石油から分離された白色半透明の固体。炭素数一六～四〇のメタン系炭化水素の混合物。融点はセ氏五〇～七五度くらいで、水をはじく性質がある。ろうそく・マッチ・クレヨンなどの原料とする。石蠟(せきろう)。パラフィン蠟[小学館『大辞泉』編集部 1995:2171]。
- 5) 食品サンプル創作館さんぶる工房 <http://www.samplekobo.com/index.php>
- 6) 岩崎模型製造株式会社 <http://www.iwasakimokei.com/index.html>
- 7) 旭サンプル工房 <http://www.asahi-samplekobo.jp/>
- 8) 時系列順で記述を行っているため特定の企業を優先しているわけではない。
- 9) 聞き取り調査では「十数年前」と語っていたが、インターネット上では「一般の方にも手軽に体験出来る施設を平成4年から本格的に始め・団体様から個人様まで又年齢を問わず楽しめるようになっていきます[<http://www.iwasakimokei.com/rekisi.htm>]。」
- 10) メリットとデメリットは今回の調査で聞き取りができた部分のみの記述になる。これ以外にもメリットとデメリットがある可能性は十分にある。
- 11) 「さんぶるん」は2011年7月現在では通販などは行っておらず、岩崎模型関係企業に直接行かないと入手ができない。
- 12) 2011年3月11日14時48分18秒に起こった地震。マグニチュード9.0を記録し、死者・行方不明者2万人は超した。
- 13) 2012年オープン予定。
- 14) 郡上市への合併前。
- 15) 注文は全国各地からある。
- 16) 食品サンプル創作館さんぶる工房は食品サンプル体験用のパーツをベトナムで生産をしている。

参考文献

市長公室秘書広報課

2010『郡上市 みんなでつくる郡上～人と自然が調和した交流文化のまち～』郡上市。

(財)郡上八幡産業振興公社

2001『遊歩 vol.9 一郡上八幡一』株式会社編集工房あゆみ。

野瀬泰申

2002『目で食べる日本人 食品サンプルはこうして生まれた』旭屋出版。

高田英太郎

1982『蠟の花 模型王・岩崎瀧三伝』株式会社いわさき。

小学館『大辞泉』編集部

1995『大辞泉』小学館。

The History of Food Sample in Gujohachiman

UCHIYAMA Shingo